

国・地方連携会議ネットワークを活用した
男女共同参画推進事業

女性はもっと活躍できる！
～WEPsが変える仕事の未来～

(特活)国連ウィメン日本協会
議員名： 三輪 敦子

開催趣旨・目的

- 2012年度の連携会議との共催事業である「女性の活躍推進シンポジウム～女性はもっと活躍できる」(2013年2月15日)の開催から得られた知見と経験を踏まえ、以下の諸点を目的としてシンポジウムを実施した。
 - (1) 具体例や成功事例の共有を通じた、WEPsに関するさらなる理解の浸透
 - (2) 新しい企業のあり方や働き方への展望をともに考える場の提供
 - (3) 特に学生や若い人たちに対し、女性が十分に能力を発揮し活躍できる労働環境や企業のあり方についての世界の潮流と展望について啓発する機会の提供

シンポジウムの概要

【日時】 2013年12月16日(月)13:00~16:00

【場所】 女性就業支援センターホール(港区)

【参加者数】 192名

【プログラム】

第1部 基調講演「男性リーダーと共にジェンダー平等を」

エリザベス・ブロデリック氏／オーストラリア連邦政府 性差別担当コミッショナー

第2部 パネルディスカッション

「企業と仕事の未来～WEPsが日本企業を変える！」

パネリスト

石川康晴氏／(株)クロスカンパニー代表取締役社長

國井秀子氏／芝浦工業大学学長補佐・大学院工学マネジメント研究科教授、元リコーITソリューションズ(株)会長執行役員

横田響子氏／(株)コラボラボ代表取締役

コーディネーター

岩田喜美枝氏／国連WEPsリーダーズグループメンバー、2011・12年度経済同友会人財育成・活用委員会副委員長、国連ウィメン日本協会副理事長

- ジェンダー平等の実現が多面的かつ複雑な課題であり、あらゆるセクター、なかでもビジネスセクターとの協力が不可欠であることを強く意識し、「変革のための男性オピニオンリーダー(Male Champions of Change)」に代表される取り組みの指針としてWEPsを活用してこられたオーストラリア連邦政府性差別担当コミッショナーであるエリザベス・ブロードリック氏による基調講演と、日本においてWEPsを活用しながら企業における女性の活躍に取り組んでおられる方々によるパネルディスカッションをおこなった。
- 内閣府、男女共同参画推進連携会議、公益社団法人経済同友会との共催により実施し、オーストラリア大使館、ILO 駐日事務所、東京商工会議所、一般社団法人グローバル・コンパクト・ジャパン・ネットワークから後援をいただいた。

参加者からの主な意見

【基調講演】

- 非常に触発され刺激を受けた
- パワーをもった男性と一緒に取り組むことの重要性を感じた
- 男性に対し、組織的なアプローチだけでなく、一人一人の心に訴えていくことの大切さがわかった
- 心に訴えることの必要性和、その具体的事例がとても役に立った
- DVをビジネスと結びつけて話されたのが興味深かった
- 男女差別について、頭で理解するだけでなく心で理解するという言葉に改めて納得するところがあった

【パネルディスカッション】

- 非常に参考になる具体的な方法をいくつも知ることができた
- WEPsの具体的な事例や解釈があり、WEPsの理解が深まった
- WEPsについて色々な側面から話が聞けて、これを広めていかなければならないと思った
- 大学で女子学生へのキャリア支援に携わっているが、とても貴重な内容だった。今日の話参考に支援していきたい
- 進んでいる企業の考え方を知ることができて、かなりの収穫だと思っている。改めて当社における女性管理職比率の目標設定、情報開示の重要性・必要性を認識した
- 企業のトップの具体的な行動や姿勢は大変参考になり、励ましになった

事業を通して得た成果（効果）

- シンポジウムについての評価については、「とても良かった」が51.7%、「良かった」が43.8%で、合計すると95.5%になり非常に高い評価をいただけたことを喜んでいる。
- シンポジウムに参加する前にWEPsについて知っていたかどうかについては、「名前だけは知っていた」と「まったく知らなかった」が55.0%であり、本シンポジウムを通じて、WEPsの周知に貢献できたと考えている。
- 「社会人になる前に女性の活躍の実状を知る事ができた」「業界、立場の違うリーダーが同じ目標に向かって社会を動かしている事を実感し、自分も何かできる事を着実に実行していきたいと思った」等の評価をいただけたことを非常に嬉しく感じている。

今後の課題

- 学生や若い人たちへの啓発を目的の一つに掲げたが、アンケートに答えてくれた参加者を年齢層別にみると、20歳代が18.0%、30歳代が16.9%であり、後一步の努力が必要だったかと感じている。(最も多かった年齢層は40歳代の24.7%)
- 女性の活躍推進に関し、今後、どんな情報が必要かを尋ねたアンケート結果からは以下のような答えが得られた。WEPsを通じたジェンダー平等の推進のための今後の課題と考えたい。

「女性が働きつづける際の課題である『家庭』の問題をどのように解決・克服したのか」「子どもを産むことによって被る不利益がなくなるよう支援する制度の整備」「女性だけでなく人類100年後のことを考えたWEPs」「男性の意識改革の方法。男性管理職への教育」「多様性が企業に具体的に何をもたらすか」